

皮膚科

皮膚科の紹介

皮膚科領域の一般的疾患から稀少難治疾患までかたよりなく幅広い診療を行っており、専門医取得のために要求される疾患の全般的な研修を無理なく行なうことが可能です。また、形成外科が同じ講座内にあり、皮膚腫瘍、熱傷、皮膚潰瘍などは連携して診療しています。教室の研究テーマは、アトピー性皮膚炎・乾癬と自然免疫、薬疹を含めた皮膚アレルギー、創傷治癒、抗加齢皮膚医学などです。

プログラムの目的と特徴

炎症・感染・腫瘍など皮膚に生じるすべての疾患を当院や連携病院で学び、最短5年で皮膚科専門医取得を取得することができます。大学院進学も可能です。



経験目標

皮膚科専門医取得のために必要な臨床経験、皮膚病理診断、講習会出席、学会発表、論文作成（筆頭著者で3本）が最低限の目標です。

指導医や指導体制

指導医は皮膚科専門医で、教授：佐山浩二、准教授：藤山幹子、講師：村上正基、白石研（病棟医長）、助教：宮脇さおり（外来医長）、難波千佳、宇都宮亮です。指導医とチームを組み、外来診察医あるいは病棟医長の指導のもとに診療を行います。

研修に関する行事

- 外来診療：月～金曜日午前
- 手術：火曜日、木曜日
- 月曜日 14 時、教授回診、臨床カンファレンス
- 火曜日 17 時、病理検討会
- 水曜日 16 時、臨床および病理カンファレンス、抄読会
- 木曜日 16 時、病棟医長回診、各種レクチャー



新専門研修プログラムについて



* 研修連携病院には、県立中央病院、松山赤十字病院、松山市民病院、済生会松山病院、県立今治病院、済生会今治病院、市立宇和島病院があります。また、準連携施設である当院の形成外科で1年間の研修を行うことも可能で、この1年間も上記の研修期間に含まれます。

** 条件を満たせば、5年目終了後に専門医取得が可能です。

専門研修終了後について

大学にスタッフとして残り、専門外来を含めた外来診療、専門研修医指導、臨床・基礎研究などを行うことが可能です。連携病院に勤務するという選択肢もあります。現在、当科出身の医師が、県立中央病院、松山済生会病院、松山市民病院、県立今治病院、済生会今治病院、市立八幡浜病院、市立宇和島病院などで常勤医として勤務しています。また、大学院に進学する、国内外に留学することも可能です。

専門研修の問い合わせ先

藤山幹子（准教授）089-960-5350 tohm@m.ehime-u.ac.jp